

確率変数の独立, 和, 独立同分布の和

樋口さぶろお <https://hig3.net>

龍谷大学 先端理工学部 数理・情報科学課程

確率統計 I L08(2022-05-30 Mon)

最終更新: Time-stamp: "2022-05-30 Mon 11:30 JST hig"

今日の目標

- 確率変数の独立性を判定し利用できる
- 和の確率分布/母平均値/母分散を計算できる
- 独立同分布の和の母平均値/母分散を計算できる

岩薩林 確率・統計 §3.3

岩薩林 確率・統計 p.113, 定理 5.2



L07-Q1

Quiz 解答: 条件付き分布

$$\textcircled{1} p_{Y|X}(0|9) = \frac{p(9,0)}{p_X(9)} = \frac{\frac{1}{6}}{\frac{1}{6} + \frac{1}{3}} = \frac{1}{3}.$$

$$\textcircled{2} p_{X|Y}(9|0) = \frac{p(9,0)}{p_Y(0)} = \frac{\frac{1}{6}}{\frac{1}{6} + \frac{1}{3} + \frac{1}{6}} = \frac{1}{4}.$$

L07-Q2

Quiz 解答: 同時分布・条件付き分布・周辺分布

$y \backslash x$	2	3	
20	3/12	1/12	4/12
30	4/12	4/12	8/12
	7/12	5/12	1

L07-Q3

Quiz 解答: ベイズの定理

①

$$p_{Y|X}(y|1) = \begin{cases} 0.95 & (y = 10) \\ 0.05 & (y = 20) \end{cases}$$

$$p_{Y|X}(y|2) = \begin{cases} 0.125 & (y = 10) \\ 0.875 & (y = 20) \end{cases}$$

$y \backslash x$	1	2
10	0.19	0.10
20	0.01	0.70

②

$$\begin{aligned} p_{X|Y}(1|10) &= \frac{p_{Y|X}(10|1)p_X(1)}{\sum_x p_{Y|X}(10|x)p_X(x)} \\ &= \frac{0.95 \times 0.2}{0.95 \times 0.2 + 0.125 \times 0.8} = \frac{19}{29}. \end{aligned}$$

3

$y \backslash x$	1	2
10	0.76	0.025
20	0.04	0.175

$$\begin{aligned}
 p_{X|Y}(2|20) &= \frac{p_{Y|X}(20|2)p_X(2)}{\sum_x p_{Y|X}(20|x)p_X(x)} \\
 &= \frac{0.875 \times 0.2}{0.05 \times 0.8 + 0.875 \times 0.2} = \frac{35}{43}.
 \end{aligned}$$

L07-Q4

Quiz 解答: ベイズ推定

検査 $Y = \begin{cases} 80 & (\text{陽性}) \\ 20 & (\text{陰性}) \end{cases}$, 病状 $X = \begin{cases} 100 & (\text{病気}) \\ 0 & (\text{病気でない}) \end{cases}$ で表す.

$$p_X(100) = 0.005, p_{Y|X}(80|100) = 0.99, p_{Y|X}(80|0) = 0.02$$

同時確率分布

$x \setminus y$	80	20	計
100	真陽性 0.99×0.005	偽陰性 0.01×0.005	0.005
0	偽陽性 0.02×0.995	真陰性 0.98×0.995	0.995

$$\begin{aligned}
 p_{X|Y}(100|80) &= \frac{p_{Y|X}(80|100) \times p_Y(100)}{p_{Y|X}(80|100) \times p_Y(100) + p_{Y|X}(80|0) \times p_Y(0)} \\
 &= \frac{0.99 \times 0.005}{0.99 \times 0.005 + 0.02 \times 0.995} = 0.199185.
 \end{aligned}$$

ここまで来たよ

8 条件付き確率とベイズの公式

8 確率変数の独立, 和, 独立同分布の和

- 確率変数の独立性
- 確率変数の和
- 独立同分布にしたがう確率変数の和

確率変数が「同じ」対「同分布」再訪

2つの確率変数 X, Y .

X, Y は同じ 定義: $X = Y$, 各試行で同じ値.

- X, Y が同じ, ならば, 同分布 (次)
- 例: コイン1枚 (表 (1) の確率 $0 < p < 1$) を1回投げた結果に, 2つの変数名 X, Y をつけた

$y \backslash x$	0	1
0	$1 - p$	0
1	0	p

X, Y は同分布 定義: 周辺分布が等しい $p_X(a) = p_Y(a)$.

- 「同じ」とはかぎらない
- $E[g(X)] = E[g(Y)]$.

$y \backslash x$	0	1
0	$1 - \frac{3}{2}p$	$\frac{1}{2}p$
1	$\frac{1}{2}p$	$\frac{1}{2}p$

X, Y は同分布 2

例: 形の同じ青色コイン X (表 p) と赤色コイン Y (表 q). $p = q$

$y \backslash x$	0	1	
0	$(1-p)(1-q)$	$p(1-q)$	$1-q$
1	$(1-p)q$	pq	q
	$1-p$	p	1

同分布は置いといて, $p \neq q$ でも, この形の同時分布は特別 (カモ).

- X の確率が Y によらない. Y の確率が X によらない.
 - ▶ 条件付き分布 $p_{Y|X}(y, x) = p_Y(y)$. x の条件によらない.
 - ▶ 条件付き分布 $p_{X|Y}(x, y) = p_X(x)$. y の条件によらない.

確率変数の独立性

高校 数学 B

岩薩林 確率・統計 (3.14)p.58

独立性

確率変数 X, Y が独立 (independent) とは次が成立すること.

$$p(x, y) = p_X(x) \times p_Y(y)$$

X, Y が独立とは

- すべての行 (周辺分布も) がベクトルとして平行. すべての列 (周辺分布も) がベクトルとして平行
- 条件付き確率が周辺分布に等しい
 $p_{X|Y}(x|\text{何でも}) = p_X(x), p_{Y|X}(y|\text{何でも}) = p_Y(y)$.
- ベイズ推定は役立たない. 事前確率=事後確率.
- X, Y が互いに「無関係」であること

事象 A, B が独立 $\Leftrightarrow P(A \text{かつ} B) = P(A) \times P(B)$ 岩薩林 確率・統計 p.40, を確率変数に対して書いたもの.

独立である例

例

$y \backslash x$	0	1
10	4/9	2/9
11	2/9	1/9

例

赤白のサイコロを各 1 個振って, $X =$ 赤の目, $Y =$ 白の目.

例

下のカードから引いて, $X =$ 色, $Y =$ 数.

♥8 ♦8 ♦9

♠8 ♣8 ♣9

独立でない例

例1 さいころを1個振って,

$$X = \begin{cases} 0 & (\text{目は4以下}) \\ 1 & (\text{他}) \end{cases}, \quad Y = \begin{cases} 0 & (\text{他}) \\ 1 & (\text{目は5または6}) \end{cases}$$

$X = Y$. 確率変数 X, Y は同じ.

$y \backslash x$	0	1
0	2/3	0
1	0	1/3

例2 例1の $X, Y = -X + 1$. 「 Y は X の関数」

$y \backslash x$	0	1
0	0	1/3
1	2/3	0

X, Y が独立, はカモ

$x = 1, 2, \dots, 100, y = 1, 2, \dots, 200$ の確率分布を暗記しろって言われたときに,

- 独立じゃなかったら, 100×200 個の数をおぼえなきゃいけない
- 独立なら 周辺の $100 + 200$ 個の数だけおぼえればいい.

次の公式を全部使える

X, Y が独立なときに成立するととてもいい性質 岩薩林 確率・統計 (3.18)p.61

$$E[g_1(X) \times g_2(Y)] = E[g_1(X)] \times E[g_2(Y)] \quad (\text{IE1})$$

$$\text{特に } E[XY] = E[X] \times E[Y] \quad (\text{IE2, (3.18)})$$

$$\text{特に } \text{Cov}[X, Y] = 0 \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC1, (3.21)})$$

$$V[g_1(X) + g_2(Y)] = V[g_1(X)] + V[g_2(Y)] \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC2})$$

$$\text{特に } V[X + Y] = V[X] + V[Y] \quad \text{岩薩林 確率・統計 (3.21)p.63} \quad (\text{IC3, (3.21)})$$

$$V[aX + bY + c] = a^2V[X] + b^2V[Y] \quad (\text{IC4})$$

IC3, IC4 は, 独立でなくても $\text{Cov}[X, Y] = 0$ だけで成り立つ.

$\text{Cov}[X, Y] = 0$ は独立の **必要条件** (だが **十分条件** ではない)

一部の証明連続型で書くけど, $f \rightarrow \sum$ で離散型でも同様.

$$\begin{aligned}
 & \mathbf{E}[g_1(X) \cdot g_2(Y)] \\
 &= \iint g_1(x)g_2(y) \cdot f(x, y) dy dx \\
 &\stackrel{\text{独立}}{=} \iint g_1(x)g_2(y) \cdot f_X(x) \times f_Y(y) dy dx \\
 &= \int g_1(x)f_X(x) \left(\int g_2(y) \cdot f_Y(y) dy \right) dx \\
 &= \mathbf{E}[g_1(X)] \times \mathbf{E}[g_2(Y)]
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \mathbf{V}[X + Y] &\stackrel{\mathbf{V}1}{=} \mathbf{E}[(X + Y)^2] - \mathbf{E}[X + Y]^2 \\
 &\stackrel{\mathbf{E}6}{=} \mathbf{E}[X^2] + 2\mathbf{E}[XY] + \mathbf{E}[Y^2] - (\mathbf{E}[X]^2 + 2\mathbf{E}[X]\mathbf{E}[Y] + \mathbf{E}[Y]^2) \\
 &\stackrel{\mathbf{V}1, \mathbf{C}1}{=} \mathbf{V}[X] + 2\mathbf{Cov}[X, Y] + \mathbf{V}[Y] \\
 &\stackrel{\mathbf{I}C1}{=} \mathbf{V}[X] + 0 + \mathbf{V}[Y]
 \end{aligned}$$

L08-Q1

Quiz(独立な確率変数の母期待値)

独立な確率変数 X, Y を考える.

$E[X] = 2, E[Y] = 3, V[X] = 5, V[Y] = 11$ である.

- ① $E[(-2X + 3Y)(X + 5Y)]$ を求めよう.
- ② $V[-2X + 3Y]$ を求めよう.

岩薩林 確率・統計 問題 6(p.64)

岩薩林 確率・統計 第 3 章練習問題 2(p.73)

岩薩林 確率・統計 第 3 章練習問題 5(p.73)

ここまで来たよ

8 条件付き確率とベイズの公式

8 確率変数の独立, 和, 独立同分布の和

- 確率変数の独立性
- 確率変数の和
- 独立同分布にしたがう確率変数の和

2次元離散型確率変数の和

$X = X_1, Y = X_2$: 確率変数.

$S = X_1 + X_2$ とする.

$$E[S] = E[X_1 + X_2] = E[X_1] + E[X_2].$$

$$V[S] = V[X_1 + X_2] = V[X_1] + V[X_2] + 2\text{Cov}[X_1, X_2] \stackrel{\text{独立}}{=} V[X_1] + V[X_2].$$

Quiz(2次元の離散型確率変数の同時分布と周辺分布)

離散型確率変数 X_1, X_2 の同時分布 $p(x_1, x_2)$ が次の表で与えられる

$x_1 \backslash x_2$	1	2	3
4	4/32	8/32	16/32
5	3/32	1/32	0

確率変数 $S = X_1 + X_2$ の確率関数 $p_S(s)$ を求めよう.

$S = X_1 + X_2$ の確率関数 $p_S(s)$ は?
 確率 $P(S = s) = p_S(s)$ となるべき.

$$\begin{aligned} P(S = s) &\stackrel{\text{定義}}{=} \sum_{x_1} \sum_{x_2} I_{[X_1+X_2=s]}(x_1, x_2) p(x_1, x_2) \\ &= \sum_{x_1=-\infty}^{+\infty} p(x_1, s - x_1) \end{aligned}$$

特徴関数 $I_{[\text{ナントカ}]}(x)$ は, ナントカが成立するとき 1, しないとき 0.

和の確率関数

離散型確率変数 X_1, X_2 の同時分布 $p(x_1, x_2)$ のとき, 和 $S = X + Y$ の確率関数は,

$$p_S(s) = \sum_{x_1=-\infty}^{+\infty} p(x_1, s - x_1) \stackrel{\text{独立}}{=} \sum_{x_1} p_{X_1}(x_1) p_{X_2}(s - x_1).$$

最右辺の形 **たたみ込み, 合成積 (convolution)**

ここまで来たよ

8 条件付き確率とベイズの公式

8 確率変数の独立, 和, 独立同分布の和

- 確率変数の独立性
- 確率変数の和
- 独立同分布にしたがう確率変数の和

独立同分布

$X = X_1, Y = X_2$ は独立同分布 定義: 独立かつ同分布

例: 形の同じ青色コイン X_1 と赤色コイン X_2 .
表がでる (1) の確率 p

$x_2 \backslash x_1$	0	1
0	$(1-p)^2$	$p(1-p)$
1	$p(1-p)$	p^2

独立同分布 (i.i.d.) 岩薩林 確率・統計 定理 4.2(p.87) の仮定, p.113

離散型/連続型確率変数 X_1, X_2, \dots, X_n が, たがいに独立で, すべて同分布に従う (同じ周辺分布 $p_{X_i}(x_i) = p(x)$ を持つ) とする.

このとき X_1, \dots, X_n は独立同分布に従う (i.i.d.=independent and identically-distributed) という.

母期待値も共通になる. $E[X_i] = \mu, V[X_i] = \sigma^2$.

例: 同じ形の n 色のサイコロ. X_1 =青色, X_2 =緑色, \dots .

L08-Q2

Quiz(独立同分布の母期待値母分散)

確率変数 X_1, X_2, X_3 は独立同分布に従い, $E[X_i] = \mu, V[X_i] = \sigma^2$ とする.
次の母期待値, 母分散を μ と σ^2 で表そう.

- 1 $E[X_1 + X_1 + X_1]$
- 2 $E[X_1 + X_2 + X_3]$
- 3 $E[X_1 + X_1 + X_2]$
- 4 $V[X_1 + X_1 + X_1]$
- 5 $V[X_1 + X_2 + X_3]$
- 6 $V[X_1 + X_1 + X_2]$
- 7 $E[(X_1 + X_2 + X_3)^2]$

独立同分布にしたがう確率変数の和の性質

岩薩林 確率・統計 例題 4.6

i.i.d にしたがう確率変数の和

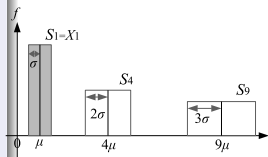
X_1, \dots, X_n : i.i.d. 母平均値 $E[X_i] = \mu$, 母分散 $V[X_i] = \sigma^2$.

和の確率変数 $S_n = X_1 + \dots + X_n$.

$$E[S_n] = \sum_{i=1}^n E[X_i] \stackrel{\text{同分布}}{=} n \times \mu.$$

$$V[S_n] \stackrel{\text{独立}}{=} \sum_{i=1}^n V[X_i] \stackrel{\text{同分布}}{=} n \times \sigma^2$$

S_n の確率密度関数はこんな感じ?



U_n の確率密度関数はこんな感じ?

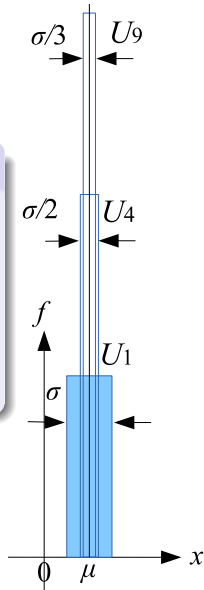
i.i.d にしたがう確率変数の和の $1/n$

X_1, \dots, X_n : i.i.d.

新しい確率変数: $U_n = \frac{1}{n} S_n = \frac{1}{n} (X_1 + \dots + X_n)$

$$E[U_n] = E\left[\frac{1}{n} S_n\right] \stackrel{\text{同分布}}{=} \frac{1}{n} \times n \times \mu.$$

$$V[U_n] = V\left[\frac{1}{n} S_n\right] \stackrel{\text{iid}}{=} \left(\frac{1}{n}\right)^2 \times n \times \sigma^2.$$



L08-Q3

Quiz(独立同分布にしたがう確率変数の和)

ダーツで, 1 回投げるごとに点数が得られ, n 回投げた合計点で競うルールでプレイしている.

あるプレイヤーの i 回目の点数を確率変数 X_i とすると, X_i は独立同分布にしたがい, $E[X_i] = 80$, $V[X_i] = 200$ だという.

このプレイヤーが n 回投げた合計点を確率変数 $S_n = \sum_{i=1}^n X_i$ とする.

- 1 $E[S_{10}]$, $V[S_{10}]$ を求めよう.
- 2 $E[\frac{1}{10}S_{10}]$, $V[\frac{1}{10}S_{10}]$ を求めよう.
- 3 $E[\frac{1}{100}S_{100}]$, $V[\frac{1}{100}S_{100}]$ を求めよう.